

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2970600447
法人名	株式会社 サニーオーク
事業所名	グループホーム エル
所在地	奈良県桜井市上之宮9-1 (電話) 0744-46-3209
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成19年11月7日

【情報提供票より】(19年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	5 人
非常勤	12 人
常勤換算	11.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (利用一時金含む)	360,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円			

(4) 入居者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかもとクリニック・春日病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に緑が多く残された住宅地の中に、落ち着いた色調の2階建てで新築開所されました。ホーム内は木材がふんだんに取り入れ温もりがあり、共用空間は広くトイレ・浴室も清掃が行き届き明るく清潔で、生活に安心とゆとりが感じられます。職員も運営理念を大切に支援されており、利用者も暮らしの中に生きがいや楽しみを見つけ、生き生きと過ごされています。なお、利用者の生活圏の拡がりを確保するために、地域社会との交流を積極的に持たれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての訪問者むけ案内看板の設置や行政との関りについての課題提起に対して、適切に対処され、課題は解消されています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の必要性や意義について正しく認識されており、評価することは、サービスの質を点検する機会と捉え、評価結果を職員に周知・徹底し改善への取り組みに資されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域密着型サービスと位置づけされた事を背景に、地域社会との関りや利用者支援のあり方と事業所運営の課題・展望等が検討され、良質なサービスの提供に活かす取り組みがなされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に生活の様子等を伝えると共に意見・要望を聴取される機会とされているほか、運営推進会議にも多くの家族が出席されており、ここでも意見聴取されています。また、投書箱の設置があり自由な意見等が寄せられる仕組みがあります。なお、収集された内容を検討され、運営に活かすように努められています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域はホームに対する良き理解者・応援者との認識に立ち、開設時より積極的に働きかけ、ホーム行事に多くの住民の参加があり、また、利用者も地域活動に参加され地域社会との関りを大切にされています。また、近くの小学生の緊急時の避難場所になっています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに制度改正された趣旨を強く認識され、地域社会の一員として積極的な住民との交流と「あなたを大切に」を基本姿勢とする運営理念が作られています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の正面に、優しい表現で板額に墨書された運営理念がさりげなく掲出されており、事務室にも職員への支援姿勢を徹底するため、運営理念の掲示とともに、「やさしく接しましたか」と一言付け加えて理念の共有化と実践に活かす取り組みがなされています。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム創設時から地域に対して積極的に理解・協力を得るために努められていたことから、ホーム内の主要行事に多くの住民の参加があり、また、地域活動(草引き・祭りの準備手伝い等)にも関わりを持ち地元との交流が図られています。また、近くの小学生の緊急時の駆け込み場所ともなっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、事業所の自己点検の機会と捉えるとともに、外部評価の意義・目的についても正しく理解され、評価結果は会議において周知され質の向上への取り組みがなされています。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画の下に定期的開催されています。構成メンバーは、行政はもとより家族・自治会代表・民生委員・ボランティア代表等幅広く委嘱され、事業所運営について意見交換され、サービス向上に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営上の課題や利用者支援のあり方等について、定期的に行行政側に相談・報告に行かれているほか、「ホームだより」に市の行事の掲載と参加等その連携に努められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラー印刷された「ホームだより」が毎月発行され、利用者の生活の様子を伝えられると共に、状況に変化が見られる時にはその都度連絡され、また、家族の訪問時にも個々の様子を報告する事とされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談担当者が選任されると共に、自由な意見を聴取する為に投書箱が設置されています。また、運営推進会議に多くの家族の参加があり、要望や希望を聞く機会に活用され、出された意見等については職員に周知し、運営に反映させる仕組みが整えられています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の職員が固定化されており、馴染みの関係を大切にされています。なお、職員の異動はこの点に十分配慮され、新しい職員が配置された時には、一人ひとりに紹介され不安や影響が無いような取り組みがなされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、毎月職員が自らテーマを決め講師となる研修会が開かれ、職員の資質の向上に向けた取り組みがなされています。管理者は、研修の意義を理解され積極的にバックアップされると共に外部研修への参加にも十分配慮されています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が利用者と同行し、周辺の同業者との交流に努め、職員育成とケア水準の向上を目指した機会として取り組んでおられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用は、本人の納得が前提であることから、支援の方法の説明はもとより、スムーズな利用に繋げるために体験機会を提供される等、雰囲気に馴染めるように工夫されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントで得られた情報を基に、得意分野で能力が発揮できる機会を設定し、協働・共感する関係作りに努められています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでの情報の共有化が図られており、加えて日常での会話や行動から得た情報を介護記録に記載され、また、家族からも情報の提供を受け、サービスに活かす取り組みがなされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を十分聞き、また、ホーム内での生活リズムや課題を基に介護計画担当者を中心に検討・作成する仕組みとなっています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等により状況に変化が生じた時に計画の見直しが行われています。		利用者が全体的に安定していることもあり、特別な場合のみ計画の見直しがなされますが、介護計画と現状が合わないケースも想定されますので、計画の変更まで至らなくても、月1回程度の新しい情報と変化の兆し等を参考に検討される取り組みが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等の状況を勘案され、通院や外出時(買い物・美容院の利用・外泊等)の送迎等必要な支援は柔軟に対応されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に説明され、家族の協力の下にかかりつけ医で受診されることとされています。また、投薬やその後の経過に応じた対応については、ホーム側から相談する体制にあります。なお、毎月3～4回の協力医の往診があり、問題があれば相談することとされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応については、強い関心と必要性を認識されており、これからの大きな課題と考えておられます。		利用者や家族にとって終末期への対応は極めて高い関心事であるとの思いを持っておられ、利用時にホームで出来る最大限の支援について説明されていますが、看取り段階までの方向性(方針)が確立されるまで至っていませんので、その体制を含め検討される事を期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に個人情報の取り扱いについて説明し、守秘義務についての誓約書を取り漏洩防止の徹底が図られています。また、一人ひとりの誇りを損ねないために、カンファレンス会議で例題を基に、その考え方や対応の仕方等について検討する仕組みがあります。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れは設定されていますが、本人の意向を優先させた支援に努められており、利用者も自分のペースとリズムで生活されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所はオープン化されており、調理の様子が伝わり、利用者も能力に合わせて調理の準備や下・配膳等と一緒に知り、また、食事は職員も同じテーブルで、季節や食べたい物等を話しながら楽しく摂られています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日及び時間帯を設定されていますが、本人の希望を尊重された入浴支援に努められています。なお、併設の通所介護施設の大浴場も適宜利用され、入浴が楽しめるよう工夫されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしの中にアクセントを付けることにより、生活に張り合いや生きがいに繋がることを認識され、歌やレクの実施・希望者には車による買い物等と共に、能力に応じた生活上の諸仕事の協働などによる支援がなされています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、気分転換とともに五感に刺激を与える効果が大きいことから、天候や利用者の状態を勘案され、近くの小学校周辺を中心に散歩したり、ドライブや買い物等外出機会の確保が図られています。また、自力歩行が困難な方には、車椅子を利用され、戸外に出掛ける支援もなされています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を理解され、玄関は施錠せず、また、センサーも設置せず自由に出入りができ、開放的に運営されています。利用者の行動については、職員の観察・連携により安全確保に努められています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練の実施や緊急時の通報体制が整えられ、また、避難場所の確認がされています。なお、運営推進会議のメンバーに自治会の代表者が居ることから、緊急時への対応を要請されています。加えて、被災時に備えて最小必要物品の備蓄がなされています。		ホームの創設時から地元の理解・協力が得られていることから、被災時における応援体制について整備されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量や水分の補給については、介護記録に詳細に記録されています。なお、食事委員会を定期的で開催され、個々の状態に合わせて支援のあり方等が検討されています。なお、夜間は自由な水分補給に資するため各居室にペットボトルが置かれています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関等には季節の花が生けられ、特別な装飾は無く普通の生活環境が保たれています。なお、廊下やトイレは広く、かつ、清掃が行き届き明るく清潔感があり、居心地の良い共用空間が確保されています。また、利用者が思い思いに過ごせる場所も確保されています。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用時に、新しい生活の場である事を説明され、使い慣れた調度品や馴染みの物の持ち込みを要請され、本人が安心して過ごせる居室作りに努められています。</p>		